

## 今月のコンテンツ

- 研修プログラム認定委員会委員長からのご報告
- 専門医・指導医認定委員会委員長からのご報告
- 今月のお知らせ
- 国際展開を目指すAMA・JMAの新たなジャーナルについてのシンポジウム

### 研修プログラム認定委員会委員長からのご報告

#### 研修プログラム認定委員会の概況



研修プログラム認定委員会委員長  
 日本産業衛生学会、産業医科大学  
 森 晃爾

研修プログラム認定委員会では、主に研修プログラムの認定と運営状況の確認、統括責任者や指導医の研修、基本プログラムの提供・認定を行っています。

研修プログラムは、2016年10月1日の第1号認定以降、順調に全国に広がり、2018年6月24日に認定された山形県社会医学系専門医研修プログラムで、73プログラムが全都道府県にわたって存在している状態になりました。正式に制度開始後1年が経過しましたので、各プログラムから1年目の定期報告を提出いただき、委員会で検討のうえ改善のためのフィードバックを差し上げたところです。その結果、2017年度は42プログラムで専攻医の採用があり、研修が行われていました。いくつかのプログラムで、プログラム管理委員会の開催頻度に課題があり、また専攻医研修

手帳に指導医の確認コメントがないものも見受けられましたが、概ね適切にプログラム運営が行われているようです。2018年度は、さらに多くのプログラムで研修が行われており、10月30日現在の登録専攻医数は224人になっています。今後も、継続的にプログラムの実施状況の確認を行いながら、委員会として支援・指導をしていく予定にしています。また、引き続きプログラムの認定申請や変更申請を受けています。

プログラム統括責任者および指導医が、制度の趣旨を正しく理解して、適切なプログラム運営と指導を行っていただくことは、本制度の発展に極めて重要です。各学会・団体から出ている委員が中心となり、学会総会開催時等に指導医研修会を引続き開催しております。指導医研修会は、指導医の更新単位としても必須

であるため、各機会に多く指導医の皆さんに参加いただいております。また、プログラム統括責任者には、プログラム運営をリードしていただく必要がありますが、誰にとっても初めての経験になります。そこで、2017年度に東京と大阪でプログラム統括責任者連絡会議を開催しました。同会議では、いくつかのプログラムに事例紹介を行っていただいた上で、グループに分かれて、抱えている課題の共有と今後の改善策について検討いただき、全体で共有を図りました。2018年度も12月24日に大阪で、1月13日に東京で開催する予定です。

基本プログラムは、主分野が「行政・地域」、「産業・環境」、「医療」に分かれる本制度では、共通の知識基盤となる重要な研修です。基本プログラムは、これまで各加盟学会に得意科目を分担していただき、主に総

会開催時に開催してきました。また、その内容を順次e-learning化してきており、2018年11月中には全科目のe-learning化を図る予定です。また、公衆衛生大学院や国立保健医療科学院等で提供されている科目について、一定の基準を満たしていれば、基本プログラムの全部または一部（科目単位）として認定する作業も行っています。

社会医学系専門医制度は、短期間でプログラム設計を行い、スタートを切りました。しかし、不明確であったり、疑問が残る部分もあり、多くのプログラムから協会事務局に質問をいただいております。これらの質問には速やかにお答えするとともに、プログラム共通事項についてはホームページで公開しているQ&Aに適宜追加して公開していますので、参考にしてください。

## 専門医・指導医認定委員会委員長からのご報告

### 専門医・指導医認定委員会の取組について

専門医・指導医認定委員会委員長  
 全国保健所長会委員長  
 葛飾区保健所長  
 せいこ あゆみ  
 清古 愛弓



専門医・指導医認定委員会は、社会医学系専門医協会構成8学会・4団体から委員が選出され、経過措置専門医・指導医の認定作業を主に行っております。経過措置期間の前半2年が経過し、なんとか、約3,000名の先生方の認定を行うことができました。委員会は10時から17時くらいまで継続することが多く、大変疲れる会議でしたが、委員の皆様のご協力です。

息ついたところです。

これから、後半2年の経過措置期間となり、2019年度経過措置指導医の申請が、2018年12月に始まる予定です。申請には、「基本プログラム」の受講が必須となっております。そのため、e-learningの準備を急いで頂き、やっと、11月中には、7科目すべての基本プログラムが掲載される予定となりました。各学会のご担

当の先生方には感謝申し上げます。

また、「専門医・指導医の更新ルール」を、2017年12月に公表いたしました。その中で、2種類の更新単位がそれぞれ10単位必要となります。社会医学系分野に関連する講習の受講（K単位）と社会医学系分野に関連する学会・団体活動の実績等の証明（G単位）です。そのため、協会構成8学会・4団体に対し、単位指定を行っていただき、委員会に報告をお願いしております。現在、社会医学系専門医協会ホームページ上で、「更新単位指定リスト」を公表しています。

次に、第1回専門医認定試験が、2019年8月18日（日）日本医師会館（東京都文京区駒込）で開催されることになりました。日本医師会は、社会医学系専門医協会の構成団体になっておりますので、広い会場をお借りすることになりました。午前中は筆記試験、午後は面接試験の予定で、現在、専門医認定試験分科会で、試験要領を検討していただいております。

この試験は、2年間の経過措置があるため、専攻医に登録されていない方も条件を満たせば受験することが可能となっています。そのため、本年7月に「受験資格事前申請」を受付、審査を行いました。その結果、36名の方が受験対象となっています。基本プログラムの受講については、先生方によって、専門職大学院や国立保健医療科学院専門課程研修、産業医科大学産業医学基本講座など、さまざまですので、受講確認方法については、ホームページをご覧ください。e-

learningでの受講については、レポートを作成し、指導医の確認を必要としています（参考：e-learning受講レポート様式）。

最後に、社会医学系専門医制度に関する全国保健所長会での取組について、ご紹介します。平成30年4月現在、全国に468か所の保健所があります。昨年度より少し減っておりますが、中核市の保健所が増える傾向にあります。公衆衛生医師の募集を行っている自治体は多く、東京都も通年で募集しています。全国保健所長会では、更新単位の指定について、全国保健所長会等が主催する研修会のリストと都道府県保健所長会等が主催するリストに分けて作成しました。広域的に各県持ち回りで開催されている「結核予防技術者地区別講習会」についても、「感染対策」のK単位の必須項目として、主催者のご協力が得られる場合については、受講票を交付していただきました。今年度は、年度途中での研修会リストの公表となりましたが、今後、早めにリストを作成していく予定です。

研修会の受講票や学会の参加証など、まとめて保管できるように、社会医学系専門医協会の更新単位指定リストのページに、「更新単位にかかる証明書添付表」を掲載し、ダウンロードできるようになっておりますので、ご利用ください。今後とも、わかりやすい制度にしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

## 今月のお知らせ

### 平成30年度研修プログラム統括責任者連絡会議について

【平成30年度研修プログラム統括責任者連絡会議のご案内】

社会医学系専門医協会が示す「専門研修プログラム整備基準」によると、研修プログラム統括責任者は社会医学系専門医協会が開催する「統括責任者研修会」を修了していることが求められております。

このたび、この「統括責任者研修会」として昨年度に引き続き標記会議を開催致しますので、各研修プログラムの統括責任者の皆様方におかれましては、大変お忙しいとは存じますがご参加いただきますようよろしくお願い致します。

研修内容等の詳細は、【平成 30 年度研修プログラム統括責任者連絡会議のご案内】をご覧ください。

【日程および開催場所】

●大阪会場

日時：平成 30 年 12 月 24 日（月・祝） 14:00～17:00

場所：大阪大学中之島センター 3 階 304 講義室

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 4-3-53

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/others/map/index.php>

●東京会場

日時：平成 31 年 1 月 13 日（日） 14:00～17:00

場所：東京大学 医学部教育研究棟 13 階 講義室

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

[https://www.u-](https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_02_09_j.html)

[tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_02\\_09\\_j.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_02_09_j.html)

【対象】研修プログラム統括責任者（その他、同行者 1 名まで参加可）

【申込締切】2018 年 12 月 7 日(17:00) 必着

【受講登録】

下記の WEB ページで受講登録してください。

または、別紙の受講申請 E-mail (senmonshakai-office アットマーク [umin.ac.jp](mailto:umin.ac.jp))

または FAX にて (03-3352-4605) お送りください。スパムメール防止のため、送信の際は"@を直接入力してください。

【登録ページ】

<https://goo.gl/forms/KvuKtw5fDPR6ADCI2>

【E-mail および FAX での申込の場合】

平成 30 年度 研修プログラム統括責任者連絡会議 申込書

【本会議についての問い合わせ先】

大阪会場

MiyazonoM アットマーク [mbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:mbox.pref.osaka.lg.jp)

（担当：全国保健所長会 宮園 将哉）

東京会場

yasushi.okubo アットマーク [ohs.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:ohs.adm.u-tokyo.ac.jp)

（担当：日本産業衛生学会 大久保靖司）

スパムメール防止のため、送信の際は"@を直接入力してください。

## 参加報告

### 日本医学会「アメリカ医師会 (AMA)・日本医師会 (JMA) 共同シンポジウム —国際展開を目指す AMA・JMA の新たなジャーナル—について

社会医学系専門医協会 理事  
日本衛生学会 理事長、川崎医科大学衛生学

おおつき たけみ  
大槻 剛巳

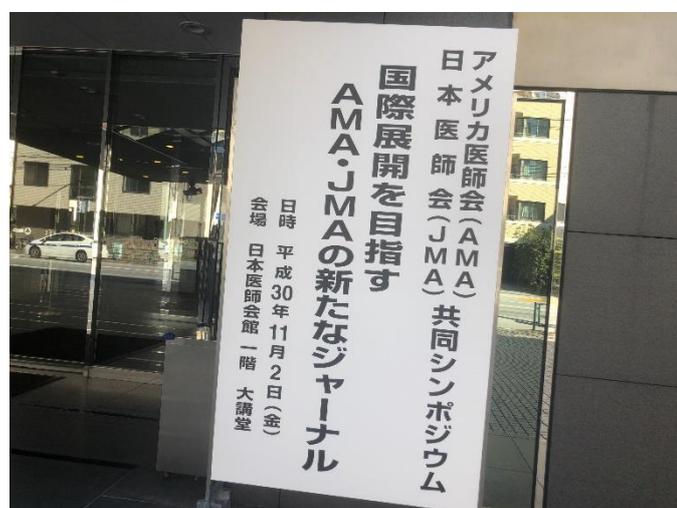


去る 11 月 2 日、日本医師会館にて表題のシンポジウムが開催されました。既にご存知かと思いますが、日本医師会では、これまでの英文誌である JMAJ を刷新されて、JMA Journal として、ピアレビュー制度の下

で国際発信力を強化していく国際誌を発刊することとなり、既に 1 巻 1 号である 9 月号が刊行されています。

今回のシンポジウムは、この発刊を期にアメリカ医

師会の発刊である JAMA (The Journal of the American Medical Association) の編集長バークナー先生、JAMA Network Open 編集長リヴァラ先生、そして The JAMA Network エレクトロニック・エディター、バークウィッツ先生を招聘されて、シンポジウムを開催されました。新たな JMA Journal の国際発信力強化に向けて JAMA から学ぶということテーマとして行われたのでした。



JAMA の 3 人の先生方のご発表から、その発信力強化の戦略として、受理までの期間の短縮化、適切な査読、十分なスタッフの確保などはもとより、Impact Factor もそうですが、Google あるいは Google Scholar などでの検索数や、Twitter や Facebook などの利用とそれらに対するコメントなども有効にデータ化されていました。さらには映像による Brief Abstract (実物の動画もご発表の中で見ることができました) など応用することによって、より五感に訴えて、読者や投稿者が、いかに雑誌の位置付けを高めて行くかということに対して、積極的に展開されていました。また、Open Access についても有効に利用されていることなどが伝わってきました。

JAM Journal でも、ノーベル賞受賞者の投稿 (発刊号には 山中 伸弥 先生たちのグループからの総説も

あります) や、臨床系のみならず、公衆衛生・保健行政などに関連する投稿も受け入れて行くとのことでした。ちなみに、創刊号の 2 編目には、本ニュースレターでも「研修プログラム認定委員会委員長からのご報告」を寄せて頂きました森先生の「Current Status and Issues for the Role of Occupational Health Physicians in



Japan」と題した総説が掲載されています。またこれらは Open Access になっています。

社会医学系のテーマも含めて、掲載論文の範疇に入っている雑誌ということで、社会医学系専門医制度関連の先生方も、是非、ご興味を持っていただいて投稿なさってはいかがでしょうか？

詳しくは WEB でってことで URL を表示します。

<https://www.jmaj.jp/>

参加の新幹線から見えた♪頭を雲の上に出し♪ていた富士山の写真も紹介しておきましょう

